

『ピンホールカメラ・ワークショップ』 実施報告書

1. 概要

ワークショップ名：『親子でみつけ♪世界でひとつのフォトグラフ～ピンホールカメラ・ワークショップ～』

日時：平成 26 年 10 月 25 日（土） 10:00～12:30

会場：大阪市立築港中学校

参加者：大阪市内在住・在学の小学生と保護者 19 名、大阪市立大正中央中学校美術部生徒 5 名

主催：大阪新美術館建設準備室、港区役所

協力：大阪市立築港中学校、海岸通ギャラリー・CASO、あかマルシェ 2014 実行委員会、築港・天保山にぎわいまちづくり実行委員会

助成：一般財団法人地域創造

実演指導者：岡田可斗子さん（キッズプラザ大阪 ミュージアムエデュケーター）
寺嶋智恵子さん（あかマルシェ事務局 写真作家）

2. 準備物

【参加者の持参品】

お菓子などの空箱（ピンホールカメラの材料）一組につき一箱

材料費 108 円

【主催者の準備物】（会場校、主催者、講師で準備）

<カメラ制作、撮影>

お菓子の箱／黒画用紙／穴をあけたアルミ／のり／はさみ／カッター／黒マジック／黒布テープ／マスキングテープ／印画紙／カッターマット／ものさし／フレーム（景色を探す際に使用）／露光時間表

<現像>

大きめの黒い布（部屋を暗くする為に使用）／バット／トング／ひも／クリップ／現像用の液剤 4 種（現像液、停止液、定着液、QW 液）／ドライウェル／スポンジ／赤外線ライト 2 台

<その他>

液晶モニター／パソコン／パワーポイント資料（講師説明用）／フォトフレーム／封筒／名札／番号札／釣り銭

3.内容

10月25日(土)10:00~12:30、築港中学校にて、「親子でみっけ♪世界でひとつのフォトグラフ~ピンホールカメラ・ワークショップ~」に、大阪市内在住・在学の小学生と保護者約20名、大阪市内の中学生5名が参加しました。今回のワークショップには、築港中学校美術部の生徒さんがスタッフとして参加してくれました。当日は晴天に恵まれ、絶好のピンホールカメラ日和となりました。

はじめに、講師の方のモノクロ写真の作品をスライドで見ながら、「ピンホールカメラ」の仕組みについて教えていただきました。

ピンホールカメラは写真の原点であり、箱にあけた小さな穴がレンズの役割をします。光の調節を自分で行なって撮影するため、様々な要素が偶然に重なり合って生まれる表現は独特の味わいがあります。



ピンホールカメラの魅力に触れた子ども達からは、質問や「早くカメラを作りたい!」という声上がり、わくわくしている様子が感じられました。

まずはカメラ本体の制作です!開いた箱の裏に黒画用紙を貼り、中央に穴を開け、レンズとなるアルミの板を取り付けます。箱の内側を真っ黒にして箱をもう一度閉じ、簡単なシャッターを取り付けて完成です。

難しい工程もありましたが、保護者の方やスタッフと共に、皆さん一生懸命に取り組んでいました!



その後完成したカメラを持って、近くの神社や海岸通ギャラリー・CASO 近くの海辺へ行き、お気に入りの風景を探しました。

ピンホールカメラは、天候や光の明るさ、時間、撮影ポイントを見つける視点などが偶然に組み合わせあって、写真が出来上がります。

参加者の皆さんからは、上手く撮れるか不安な気持ちと、どんな風に撮れるのだろう、というわくわくした気持ちを感じられました。ベストショットを撮るべく、親子で工夫を凝らしながら思い思いの一枚を撮影していました。



部屋に戻り、さっそく印画紙を現像します！
印画紙は光が当たったところが黒くなる特殊な写真用紙です。印画紙が感光してしまうのを防ぐ為、室内は真っ暗にし、赤外線ライトの明かりだけを頼りに作業を行ないました。

現像液につけた印画紙から風景が次第に浮かび上がってくると、参加者の皆さんから驚きの声があがりました。

現像した写真は部屋に張ったひもに吊るして自然乾燥します。このワークショップではネガの状態で作成とし、後日講師がポジの状態にして皆さんにお渡ししました。

現像した写真を前に、講師の方を交えて全員の作品を鑑賞しました。モノクロの少しぼやけた写真は、一



一般的な写真とはとても雰囲気異なっており、参加者の皆さんは興味深そうに一枚一枚をじっくりと鑑賞していました。

講師の方から“ネガ”と“ポジ”についてのお話や、天候や光の明るさ・時間・撮影ポイントを見つける皆さんの視点が様々に組み合わさって、偶然にもこれらの写真が出来上がる、ということをお話して頂き、カメラの仕組みについての理解も深まりました。

ワークショップを通して、道具作りの楽しさやピンホールカメラ独特の風合い、そして港区の風景の新たな魅力に気付くことができました。



参加者の皆さんが、大人も子どもも一緒になってカメラ作りや風景探しを楽しんでいる様子が印象的でした。現代では携帯電話にもカメラがついており、普段は何となく使っていますが、その仕組みについてはよく分からないという方は多いのではないのでしょうか。このワークショップでは、カメラ作りを楽しみながら仕組みを体感できる点が良いと感じました。

報告者：新村 葉月（大阪新美術館建設準備室 外部研修生）